



2017年4月10日

BMW Team Studie の BMW M6 GT3 が、 最後尾から追い上げ 13 位でフィニッシュ

2017 AUTOBACS SUPER GT Round 1 OKAYAMA GT 300km RACE

ビー・エム・ダブリュ株式会社(代表取締役社長: ペーター・クロンシュナーブル)が、コラボレーション・パートナーとしてサポートする BMW Team Studie の BMW M6 GT3 は、4月9日に開催された2017年 SUPER GT 選手権初戦の決勝において、13位でフィニッシュした。

公式練習

2017年シーズンレースウィーク最初のセッションは、ウェット路面からのスタートとなった。天候は曇りながら、高い気温に加えて、路面状況が改善するコンディションで、公式練習が行われた。ゼッケン7号車の Studie BMW M6 は、前日夜に発生した不具合のトラブルシューティングが終了せず、マシンをコース上に送り出す事無く、このセッションを終えた。

公式予選 Q1

天候:曇り。気温:20度。路面温度:21度。路面コンディション:ドライ。

Q1 は荒選手がドライブを担当した。

昨夜からの不具合の修理は、予選スタート前に完了した。午前の練習走行で一切マシンの状況を確認出来なかった荒選手は、入念なシミュレーションでアタックプランを固め、予選に備えた。しかし、セッションスタート直前、再び同様のマシントラブルが発生した。チームは総力を挙げ、トラブルシュートに挑んだが、時間内に問題を解決することが出来ず、Q1 を終えた。決勝は最後尾から追い上げのレースとなる。

決勝

フォーメーションラップ時の GT500 クラス 3 台のマシントラブルで、赤旗からスタートが切られた。メインストレート上で一旦隊列を整えた後、レースは再びローリングスタートから開始されたが、5 周目には 300 クラスのクラッシュで 2 度目のセーフティーカーが導入される波乱の幕開けとなった。

セーフティーカーが抜けた 10 周目以降、ミューラー選手は順位を徐々に上げ、13 周目では 21 番手につけた。しかし、コース上の位置が悪く、その後しばらく前を伺い続ける展開を強いられた。

ミューラー選手は 33 周目にピットインし、マシンは荒選手へのドライバー交代と給油・タイヤ交換を済ませ、コースへ復帰した。荒選手は、23 番手から徐々に順位を上げ続け、300 クラス全車がルーティンの PIT を済ませた時には、そのポジションを 17 番手とした。49 周目、300 クラスのクラッシュで 3 度目のセーフティーカーが導入された。セーフティーカーは、56 周目に解除されるまでレースをコントロールし PIT ロードへと向かった。

荒選手はレース再開時の 15 番手から 60 周目に 14 番手、67 周目に 13 番手とポジションを上げ続け、尚もプッシュし、更に前のマシンを 1 秒以内まで追い詰めたが、オーバーテイクには至らず、13 位でチェッカーを受けた。

鈴木康昭 チーム代表兼監督

レースの内容は、55号車オートボックスさんとのペースにも遜色が無く、決して悪いものではなかったと思います。16台追い抜いて13位の結果は良くはありませんでしたが、レースの内容には満足しています。昨日の予選を走れなかった事が全ての結果だと思います。ツイスティでテクニカルな岡山でAMGの速さが抜きんでいましたが、それ以外は遜色の無いレースだったと思います。次戦も頑張ります。

ヨルグ・ミュラー選手

(出走出来なかった)練習走行と予選の後、とてもとてもタフな私たちのレースウィークが始まりました。しかし、29番手からスタートして13番手まで沢山オーバーテイクをしました。ポイントは取れませんでした、良いレースだったと思います。第2戦の富士が楽しみです。

荒聖治 選手

今日は、クルマのトラブルもなく、レースを安定して走行することが出来ました。スタート順位が一番後ろからだったので、順位は13位フィニッシュに留まりましたが、次回の富士は良い順位からスタートして、もっと上のポジションで楽しいレースが出来るように頑張ります。

この件に関する読者および視聴者からのお問い合わせ先は、
BMW カスタマー・インタラクション・センター:フリーダイヤル 0120-269-437 を
ご掲載ください。

受付時間: 9:00-20:00 年中無休

BMW インターネット・ウェブサイト: <http://www.bmw.co.jp>

この件に関する報道関係者のお問い合わせは:
BMW Japan Corp. 広報室: 03-6259-8025 (企業広報)